

景気景況調査報告

(第23回)

令和3年	7～9月期	実績
令和3年	10～12月期	見通し

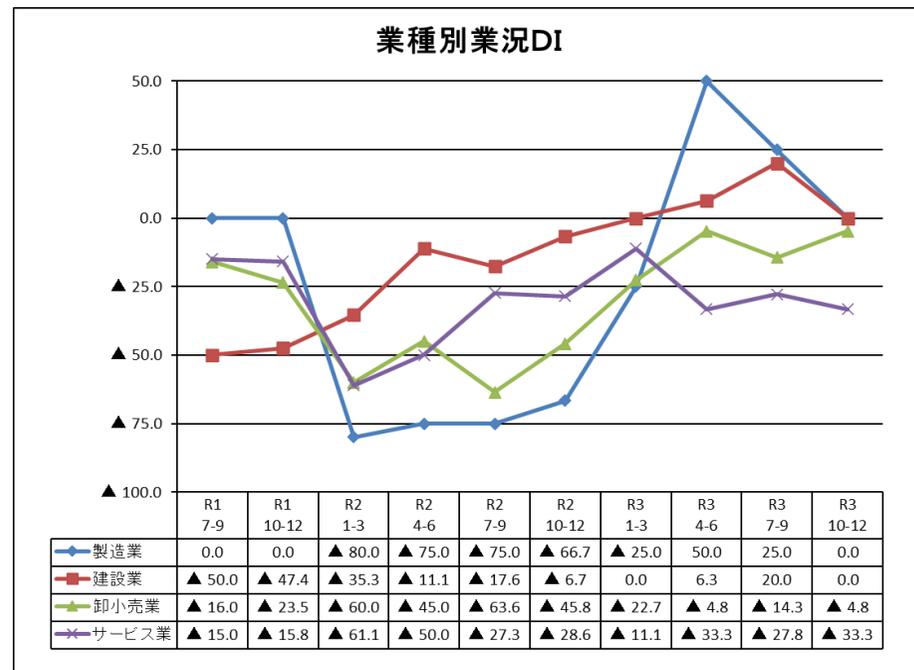
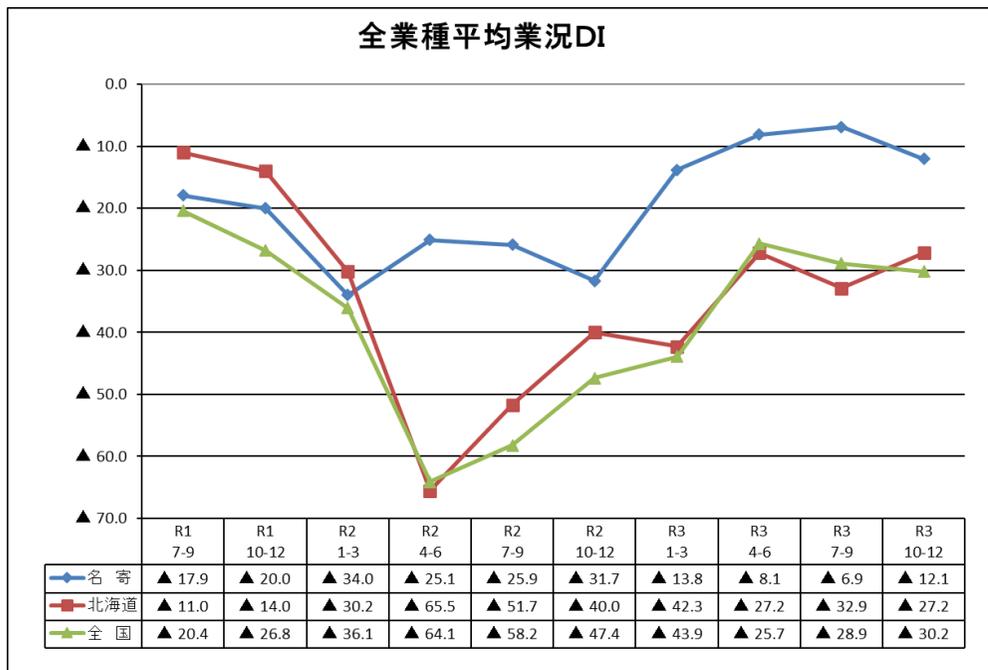
令和3年10月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 令和3年7～9月期の実績及び令和3年10～12月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 122社

II 調査結果

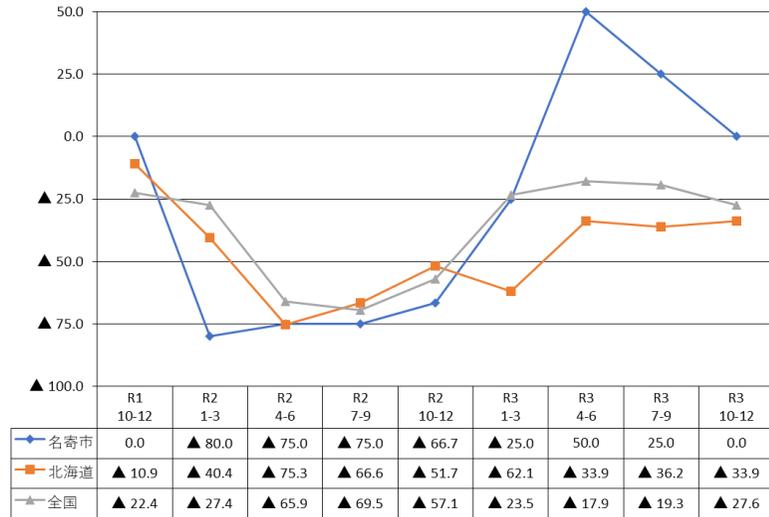


※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

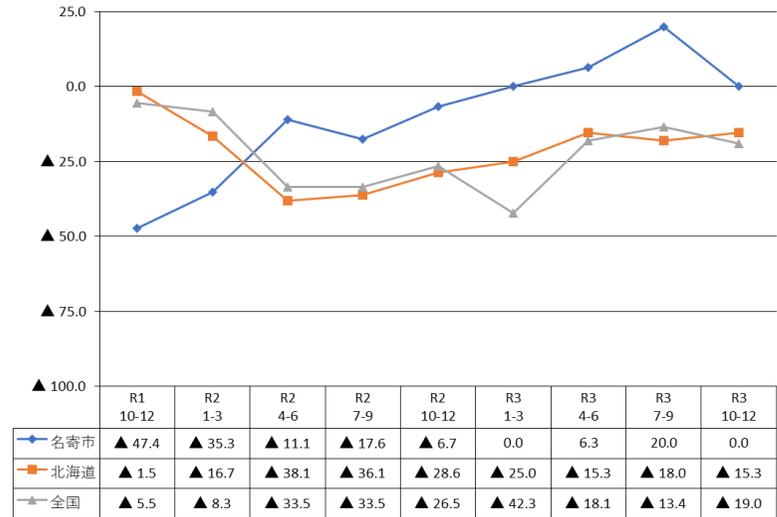
- ・今期、全業種平均で▲6.9ポイントと前回調査と比べ1.2ポイント好転となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期26.0ポイント良いが、見通しでは道・市共にマイナス幅が縮小する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期22.0ポイント良いが、見通しでは国・市共にマイナス幅が縮小する見込みとなっている。
- ・見通しでは今期と比べ5.2ポイント悪化となっており、依然としてコロナ回復の見込みが無いという回答が多くみられる。
- ・業種別では、前期に比べ製造業と卸小売業が減少となっている。見通しではサービス業が悪化傾向となっている。

業種別業況DI

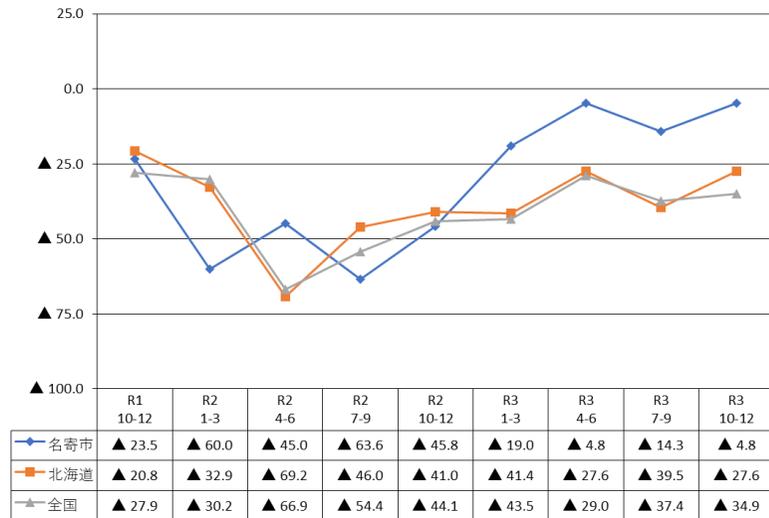
製造業 業況DI



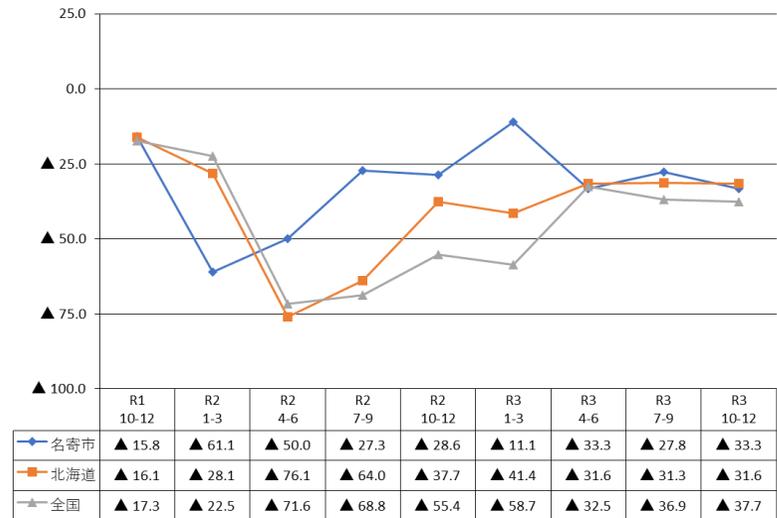
建設業 業況DI



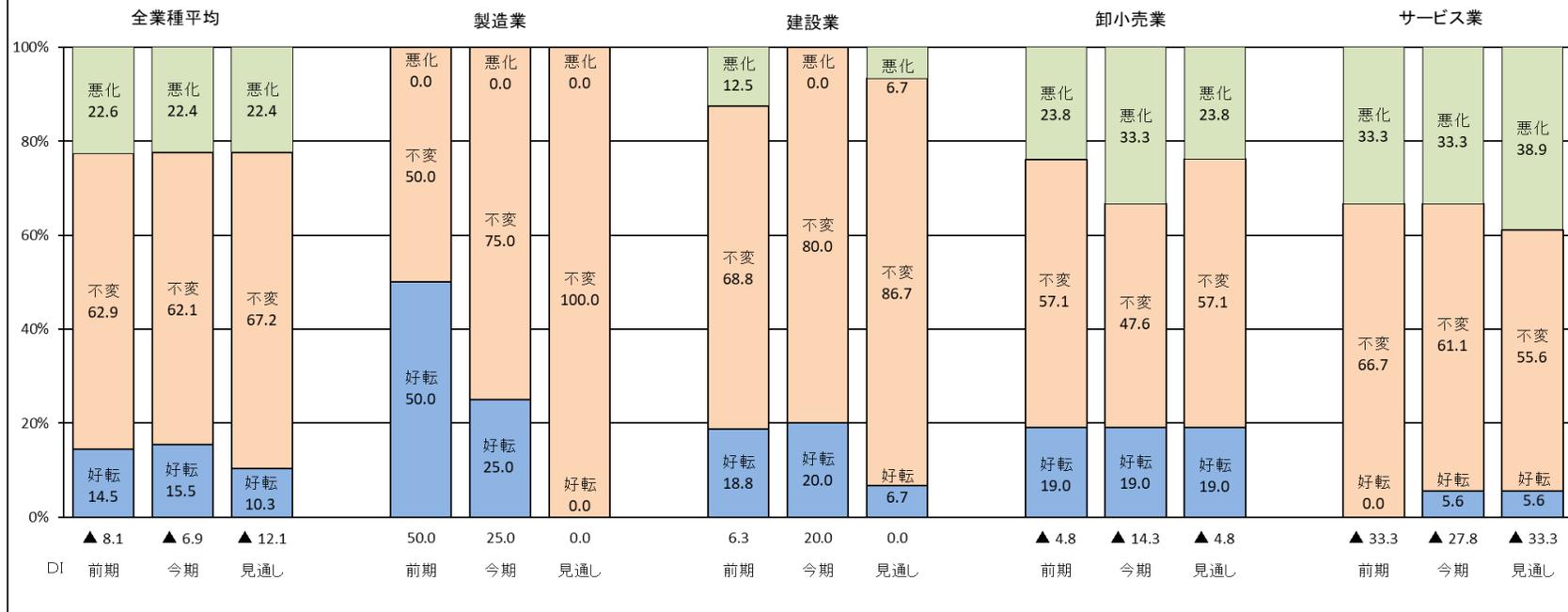
卸小売業 業況DI



サービス業 業況DI



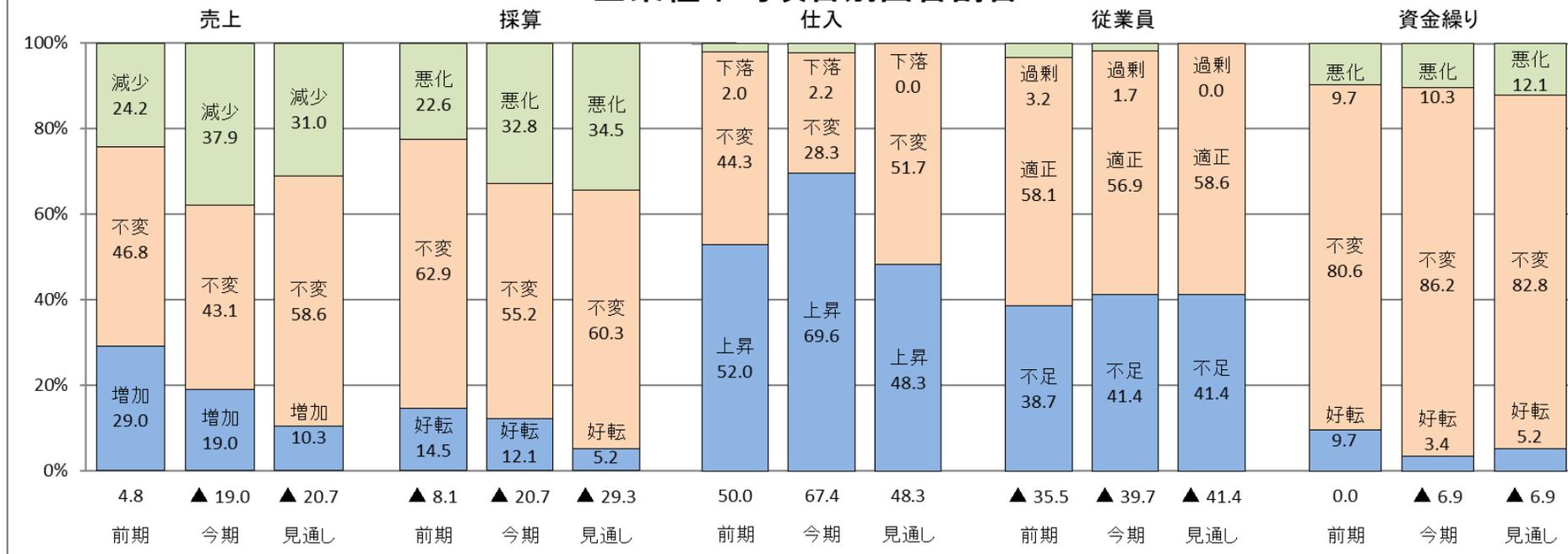
業種別業況回答割合



※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～** 今期は前期に比べ、「好転」が25.0%減少している。
見通しでは更に「好転」が25.0%減少し、「悪化」「好転」とも回答はない。
- 建設業～** 今期は前期に比べ、「悪化」の回答がなく、「好転」が1.2%増加している。
見通しでは「悪化」が6.7%増加し、「好転」は13.3%減少となっている。
- 卸小売業～** 今期は前期に比べ、「悪化」が9.5%増加しており、「好転」は横ばいとなっている。
見通しでは「悪化」が9.5%減少し、「好転」は横ばいとなっている。
悪化の要因として、緊急事態宣言発令や原油価格・物価等の高騰がみられる。
- サービス業～** 今期は前期に比べ、「悪化」は横ばいとなっており、「好転」が5.6%増加している。
見通しでは「悪化」が5.6%増加しており、「好転」は横ばいとなっている。
全体的に人口減少・仕入運賃増加・お客様の減少・緊急事態宣言発令による事業縮小・若年層不足・仕入単価増加
コロナによる人流制限・コロナ対策予算の増加、コロナの見通し不透明等々の要因が挙げられている。

全業種平均項目別回答割合



売上DI 今期▲19.0ポイントと前期より23.8ポイント減少となっている。見通しではさらに1.7ポイント減少となっている。
 [減少の要因] ・緊急事態宣言の発令 ・人口減少 ・物流の減少

採算DI 今期▲20.7ポイントと前期より12.6ポイント減少となっている。見通しではさらに8.6ポイント減少となっている。
 [悪化の要因] ・利益率の悪化 ・固定費の増加 ・最低賃金の引上げ ・原油価格の増加

仕入DI 今期67.4ポイントと前期より17.4ポイント増加。見通しでは19.1ポイント減少となっている。
 [下落の要因] ・仕入運賃の増加 ・原材料の上昇 ・価格改定 ・半導体不足 ・人件費上昇

従業員DI 今期▲39.7ポイントと前期より4.2ポイント減少となっている。見通しではさらに1.7ポイント減少となっている。
 [不足の要因] ・高齢化 ・人口減少 ・若年層の減少 ・求人難 ・退職者増 ・仕事量の減少

資金繰りDI 今期▲6.9ポイントと前期より6.9ポイント減少となっている。見通しでは横ばいとなっている。
 [悪化の原因] ・売上減少に伴う減少 ・新型コロナウイルスの影響 ・先行不透明